

# 遠藤周作研究会 会報

第2号

2007年11月1日

遠藤周作研究会発行

二〇〇七年度遠藤周作研究会・総会報告  
事務局より

機関誌『遠藤周作研究』投稿規定

## ◇第二回二〇〇七年度遠藤周作研究会・東京大会開催

第二回二〇〇七年度遠藤周作研究会・東京大会は、二〇〇七年九月二十二日（土）に、東京赤羽の星美学園短期大学で開催された。

運営委員会が行われた後、一三時より代表笠井秋生氏の開会の辞に続き、以下プログラムのとおり研究発表、総会が行われた。大会進行役は事務局長の山根道公氏と開催校の武田秀美氏が担当した。

### プログラム

#### 【研究発表】

①『沈黙』『深い河』にみる親鸞像

昭和女子大大学院 小川仁子

司会 昭和女子大学 笛木美佳

②遠藤周作「爾も、また」——遠藤周作とサド

木更津工業高等専門学校 小嶋洋輔

司会 京都外国語大学 長濱拓磨

③『留学』における象徴と暗喩——白い雪と赤い色の意味

横浜女子短期大学 兼子盾夫

司会 山梨英和大学 川島秀一

④町田市民文学館所蔵の遠藤周作旧蔵書（欧文）から  
見えてくるもの

明治大学 久松健一

司会 白百合女子大学 福田耕介

## 【総会】

本研究会の総会は、議長に下野孝文氏を選出して開かれた。

まず、遠藤周作研究会会則改正について代表より提案があり、了承された。次に、事務局より二〇〇六年度会計報告が行われ承認された。

続いて、代表より二〇〇七年事業計画について示され、承認された。内容は次のとおり。

### ◆ 機関誌発行について

機関誌名は『遠藤周作研究』。創刊号は二〇〇八年九月発行、原稿締切は二〇〇八年三月末とする。

執筆者に一〇部買取（一冊千円×一〇冊＝一万円）の負担をお願いする。投稿規定を運営委員で検討し事務局で作成する。（本会報の四ページに掲載）

### ◆ ホームページについて

ホームページ委員に、太原正裕氏 山根道公氏 小嶋洋輔氏。現在作成中。

<http://www.shinseinet.sakura.ne.jp/endo/>

### ◆ 会員名簿について

会員に葉書で名簿掲載許可を得た後、作成する。

次に、様々な分野の方に運営委員になっていただくため、新たに 兼子盾夫氏（哲学）、今井真理氏（評論）、福田耕介氏（外国文学）が推薦により選出され、承認された。

二〇〇八年度研究会は、関西学院大学において、二〇〇八年九月二十七日（土）に開催することが決定された。

そして長崎市遠藤周作文学館および町田市民文学館より、次の報告がなされた。

①長崎市遠藤周作文学館（当館専門研究員 山下静香氏）

△資料公開について▽

旧蔵書全七千冊のうち、キリスト教文学、宗教関係等の三〇〇冊を、二〇〇七年六月より書き込み部分を公開。（現物ではなく画像データの閲覧）希望者は一週間前に申し込みが必要。現在、目録作成中で今年中に完成予定。最新情報はホームページで。

〒851-2327 長崎県長崎市東出津町77番地

電話 0959-37-6011

<http://www.1.city.nagasaki.nagasaki.jp/endo/>

② 町田市民文学館（当館学芸員 神林由貴子氏）

△遠藤周作展について▽

二〇〇七年九月二十九日より十二月十六日まで、「遠藤周作とポール・エンドー」展を開催。「サウロ」の原稿（小林聖心より）、「フランスの大学生」の草稿、大連時代の文集、留学時代の手紙等の新資料も展示される。図録（千円）、欧文目録（七百円）も充実。

町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 東京都町田市原町田四丁目16番17号

電話 042-739-3420

最後に次回開催校の細川正義氏の閉会の辞をもって東京大会の日程を終了した。続いて、懇親会が会場を赤羽駅の桂林に移動し、会員出席者全員の参加により、盛大に行われた。

#### ■ 事務局より

▼今回の東京大会は、若い日本文学の研究者および、西洋哲学、フランス文学の研究者による、どれも新しい視点からの刺激的な研究発表でした。参加

者は会員約三〇名および聴講者約二〇名で、多くの参加者から大変充実した会であったとの感想が聞かれました。

▼「遠藤周作研究」創刊号の投稿論文を募集します。投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。

▼「遠藤周作とポール・エンドー」展が町田市民文学館で開催中です。初公開の新資料が多く展示され、図録、欧文目録も大変充実しています。文学館に申し込めば直接購入もできます。

▼会員で今回の発表者でもある兼子盾夫氏著の『遠藤周作の世界—シンボルとメタファー』が教文館より刊行されました。会員の方々の遠藤周作関係の刊行物がありましたら、会報でお知らせしますので、ご連絡ください。

▼研究会の会場は、遠藤周作の母の故郷の岡山から出生地の東京と続き、今回は青少年期を過ごした遠藤文学の重要な舞台でもある関西です。その地でまた、多くの会員の方々と充実した会が催されることを願っています。

# 『遠藤周作研究』 投稿規定

一 遠藤周作研究会の機関誌として、広く会員の意欲的な投稿を歓迎します。投稿論文が掲載予定数を上回った場合は遠藤周作研究会で発表されたものの掲載を優先させていただきます。

二 投稿論文は原則として縦書きで、字数は四〇〇字詰原稿用紙に換算して三〇枚以内（注も含む）とします。

三 論文は完全原稿で二部提出してください（フロッピーを添付のこと）。執筆者の校正は初校のみです。

四 論文の審査などは編集委員会が行いますが、加筆・訂正などを依頼する場合があります。

五 投稿論文の執筆者には印刷費などの費用として一万円（二〇部買い取り）の二負担をお願いします。

六 投稿論文の締切りは、毎年三月三十一日（必着）とします。ただし、前年の十二月末日までに投稿論文のタイトルを明記の上、事務局に執筆の申し込みをしてください。

七 投稿先は △遠藤周作研究会事務局V。

## 遠藤周作研究会 事務局

〒700-8516 岡山市伊福町2・16・9

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 086 (252) 3129

E-mail: michi@post.ndsu.ac.jp